

放射能から子どもを守るために

相模原市立の学校と保育園の給食などでは、今も市のゲルマニウム半導体検出器で放射性セシウム濃度を測定しています。

年に1回は全ての学校の1週間分が測定されています。1週間分全ての献立メニューを冷凍保存して測っています。こうした努力の継続はとても大切なことです。

福島第1原発の事故から3年を経て、こうした測定では、セシウムはほとんど検出されないとわかってきました。また、同時に野菜や各食材の放射性セシウムの傾向なども概ねわかって



9月23日、亀戸公園で行われた川内原発再稼働反対の集会とパレードに参加してきました。

きています。キノコ類や山菜などは気を付けたいと思う食材です。

ただ、ストロンチウムなどセシウム以外の放射性物質については未だに国の魚介類で一部検査されている以外はわからないことだらけですが。

放射能に対する感受性の高い子どもたちの大切な1食である給食を放射能から守り、内部被ばくをさせないためには、混合させて測定すること以上に、傾向としてセシウムが出やすい食材を避けること、気になる食材自体の測定を今以上に回数を増やすことが必要と考えます。

あわせて学校の校庭の空間線量は測定されていますが、土壌の測定はされていません。

校庭は遊び場であり授業の場、運動会、通学で毎日の砂埃をかぶることも日常的です。子どもの口に入る可能性のある校庭や校内の土壌についても測定することで、子どもの被ばくを防ぐことを求めている

きます。

残念な事ですが、放射性物質は今も放出されています。

東電による汚染水の密閉も成功していません。福島の10万人以上の人々の避難生活は続いていますし、今も各地で福島からの母子の保養キャンプも心ある人々によって継続されています。

無理に福島県の国道を開通させて、避難者を元の居住地に帰そうとしても、汚染をなかったことにはできません。廃棄物の山は増えていきます。

現実から目を背けるのではなく、どうしたら被ばくを少なくし、今生きる人たちを、特に子どもたちを守っていくことができるか、を考え実行することが政治と行政の仕事です。

せっかく買った市のゲルマニウム半導体検出器ですから、より有効に使い続けて行くために提案していきましょう。

人口減に拍車をかける安倍政権の地方潰し

昨年末、文部科学省の「小中学校の統廃合を促進」する方針が報道されました。60年ぶりに基準を見直し、これまで地元任せにしていた統廃合の判断を、より遠くの学校と統合するように促すというのです。

通学の距離や時間の他に、全校で12学級以下の学校について何らかの「対策」を促そう

というのです。

しかし、地域を構成する核として学校は大切な役割を担っています。規模が小さい学校だから、行事やメンテナンス、見守りもかねて地方で豊かな取り組みは多々あります。学校を中央集権的に統廃合することは、そんな地域の営みをつぶすことになりかねません。